おくのほそ道　•平泉•

あらすじ　次の空欄に適語を入れて、内容を整理しなさい。

第一段	第二段
藤原氏三代の栄華もはかなく消え、山河だけが昔の姿のまま残っている。〔①　　〕の悠久さと人の営みの〔②　　〕とが思い合わされ、涙を落とした。	以前から話に聞いていた経堂と光堂を拝観した。鞘堂によって守られ、数百年の〔③　　〕に耐えた光堂を、目の当たりに見ることができて感動し、その思いを「五月雨の」の句に詠んだ。

重要語句　次の語句の意味を答えなさい。

(1) こなた

(2) さても

重要文法　傍線部の助詞の種類と意味を答えなさい。意味は、後ろの語群から適当なものをそれぞれ一つ選んで記号で答えなさい。

(1) 金鶏山のみ形を残す。（一〇三・3）

(2) 時の移るまで涙を落とし侍りぬ。（一〇三・10）

	種類	意味

ア　強意　　イ　程度　　ウ　限定　　エ　範囲・限度

内容理解　次の各問いにそれぞれ答えなさい。

1　「栄耀一睡のうちにして」（一〇三・2）と同じ内容を表現している部分を本文から**十字程度**で抜き出しなさい。

2　自然と人間を対照的に描いている「夏草や」（一〇三・11）の句について、次の問いにそれぞれ答えなさい。

(1) 両者を表す語句を句中から抜き出しなさい。

自然　　人間

(2) この句の直前の一文の中にも、自然と人為（人の営み）を表す事物が描かれている。それぞれ**二つ**ずつ抜き出しなさい。

自然　　・　　人為　　・

(3) 自然と人間との対照的な側面を表す組み合わせとして適当なものを、次の中から**二つ**選んで記号で答えなさい。

ア　簡潔—複雑　　イ　地味—豪華　　ウ　無心—功名

エ　悠久—無常　　オ　不義—忠誠　　カ　冷静—感動

　　・